

中国留学体験記

21018042 坂井亜美

2019年8月26日～12月28日、北京師範大学での125日間の留学を経て、私が体験したことをここに記します。

最初に、私が北京師範大学への留学を決めた理由は、留学こそが語学上達への1番の近道だと考えたからです。実際に現地へ赴き、目につく文字、耳に入ってくる会話が全て中国語であるという状況下に4か月間身を置いてみて、その考えは確信に変わりました。

まず、学習面についてです。中国に渡って1週間ほど経ってから、クラス分けテストが行われました。筆記試験が全くとっていいほど解けなかったうえに、口述試験では試験官の話すスピードの速さに圧倒され、そこで初めて自身の中国語のレベルの低さに焦りを感じました。授業内でも、与えられた問題にうまく答えられないことはおろか、ヒントをくれる心優しいクラスメイトの言っていることさえ理解できないときもあり、幾度となくもどかしく、悔しい思いを経験しました。授業が始まったその日から毎日徹底して予習復習を行うことはもちろん、先生やクラスメイトとの会話、更には町中で目にした意味を知らない単語はすべて電子辞書で調べ、ノートに記し、単語力をつけることに専念しました。すると、先輩のお話の通り、1か月ほどで耳が慣れ、授業や簡単な日常会話であれば、難なくこなせるようになりました（そのため、電子辞書は必ず持参することをお勧めします）。留学を決意する以前は、定期試験で高得点を取ることでどこかで満足していた自分がいましたが、現地での大きな挫折を通して、自身の本当のレベルを知ることが出来たからこそ、外国の人とコミュニケーションをとるにあたって必要になる力を身につけられたのだと思います。

次に、生活面についてです。学内には5、6の食堂があり、一食当たり、高く見積もっても20元（日本円で換算すると約300円）程度で食べられたので、そこまで食費はかかりませんでした。食堂によって揚げ物が美味しかったり、副菜が美味しかったりと様々なので、色々な食堂の味を比べてまわることをお勧めします。また、私たちはルームメイトを、一緒に留学する国情生の仲間にするか、私たちと同時期到北京師範大学に学びに来ている外国人にするか、選択することが出来ました。私は友達と相談をしあった末、4か月間、外国の人と生活を共にすることに決めました。私のルームメイトはイギリス出身の同じく20歳の女の子でした。初めのうちは慣れない英語と中国語に悪戦苦闘する日々が続きましたが、彼女の明るく、気さくな性格に何度も助けられ、留学して1か月が経った頃には、彼女の言うジョークにも笑って返せるようになっていました。一緒に中国語のスピーチの練習をした日、共に映画を鑑賞した日、自国の行事や文化を教えあった日、ピザパ

ーティーを開いた日、互いの行きたい国について語りあった日。彼女と過ごした 125 日間はわたしにとって本当に有意義でかけがえのない時間です。もし、皆さんにもルームメイトの選択権があるのならば、外国のお友達と生活を共にしてみることが、私は今回の経験から自信をもってお勧めします。

ここまで私の体験を記してきました。少しでも留学を検討している皆さんの参考になれば幸いです。

また、今回の留学の背景には、家族、友人、ご指導をくださった先生方、手続きに尽力してくださった事務の方々のサポートがあり、そのもとで4か月間、中国で安全な生活を送ることが出来たことを本当に感謝しています。